

# 次期あいち経済労働ビジョンにおいて目指すべき方向性について

- これまでの本県経済は、国内の他地域と比較しても非常に堅調に成長してきた。
- しかし、近年、社会や経済環境の大きな変化が先鋭化してきており、今後、本県の経済労働は、非常に大きな影響を受けていくことが見込まれる。
- 次期ビジョンにおいても、これらの大きな変化に対応し、乗り越え、チャンスに変えていくことで、地域経済の持続的な成長に繋げていく。

## <論点1>

人口減少を始めとした社会の大きな変化に対し、本県の経済労働施策としてどのようなアプローチをしていくべきか？

### 課題となる主な現象

- ・人口減少（生産年齢人口の減少、地域経済の縮小、都市部への集中）
- ・経営者・技能者の高齢化
- ・労使双方の働き方に関するニーズやマインドの変化

### 関連する本県の現状

- ・本県においても、外国人の社会増を含めても人口減少フェーズに入った（自動車産業の集積地である西三河地域も人口減少フェーズに）
- ・若者を中心に東京圏への転出超過となっている
- ・人手を多く必要とする製造業が集積しており、他地域と比べても人手不足が起こりやすい地域産業構造となっている
- ・従業員規模が小さいほど年休取得日数が少なく、取得率が低い傾向にある
- ・有給休暇取得率が高い産業は、離職率が低く、労働生産性が高い傾向にある

### 主な論点

- （首都圏を始めとした地域間の人材獲得競争の激化や外国人を始めとした多様な人材の活用を含め）労働力・人材不足について、いかに対応していくべきか
- 若者や女性、クリエイティブ人材（外国人含む）の定着・流入促進のために、経済産業面からのアプローチとして何をすべきか
- 事業承継、技能継承をいかに支援していくべきか
- 多様で柔軟な働き方への労使双方のニーズに対して、どのようなサポートをしていくべきか
- リスキリングを通じたキャリアアップをいかに支援していくべきか
- 地域経済の活性化につながる「休み方改革」をいかに進めていくべきか
- 商業・サービス業が地域の多様なニーズと課題に寄り添うとともに、稼ぐ力をいかに見出していくか

## <論点2>

デジタル化の加速度的な進展を始めとした経済環境の大きな変化をいかに乗り越えていくべきか？

また、日本の経済や産業の相対的な地位低下の中で、愛知の産業が世界と闘っていくためには何が必要か？

### 課題となる主な現象

- ・デジタル化の加速度的な進展
- ・自動車産業の構造転換（SDV化、EV化等）
- ・カーボンニュートラルへの対応
- ・日本経済の低成長

### 関連する本県の現状

- ・STATION Ai を中核とした本県独自のスタートアップ・エコシステムの形成を推進
- ・製造業（特に、自動車産業）のウエイトが高い産業構造となっており、ITやソフトウェアを始めとした高付加価値な第三次産業の集積は進んでいない
- ・自動車産業比率が極めて高い（自動車産業にほぼ専業した）サプライヤーが多く存在
- ・県内のデジタル人材が不足している
- ・円安基調を背景とした好調なインバウンドの恩恵を享受しきれていない状況
- ・主要国の中で、日本（≒愛知県）の経済成長率や生産性は低い状態

### 主な論点

- スタートアップ、既存企業の両方からイノベーションが持続的に生み出される地域となるために、今後どのような取組が必要となるか
- 自動車産業の構造転換に際し、どのような取組が必要・有効であるか
- 製造業や自動車産業の集積が進んだ産業構造を踏まえ、今後の地域経済の持続的な成長のためには、どのような取組が必要か
- 企業のデジタル技術の活用、DXとそれを担うデジタル人材の確保・育成をいかに促進していくか
- 産業界が必要に応じてクリーンエネルギーを選択できるインフラをいかに整備していくか
- 地域のブランド力を高め、持続可能な観光を推進していくためには、どのような取組を行なっていくべきか（アジア・アジアパラ競技大会を始めとした大規模イベントの活用も含め）
- これまで構築してきたグローバルでの連携関係等を踏まえ、県内の企業・スタートアップのグローバルでのさらなる活躍をどう後押ししていくか
- 労働生産性や付加価値をいかに高めていくべきか、また、適切な価格転嫁をいかに促進していくか
- 経営変革への挑戦、稼ぐ力の向上などに取り組む中小企業をいかに後押ししていくか